

国際オートメカニク科			2026年度 授業計画		
時 期	1年後期	単 元	実 習	教科名	車両実習 2
科 目	自動車整備作業	教科書等 持参品	3級自動車整備士（総合） 実習ノート		発行日 2026年4月1日
総時限	28		教科 担当	坂口 正憲	
総時間	44.8			石井 隆幸	
単 位	1				
1. 指導教員の実務経験 該当 非該当 自動車整備士として電気装置整備の実務経験がある教員により電装品の構造・作動について指導する。					
2. 教科の目的（この学科の狙い、目的を明確に記入） 1、配線図の読み方を学ぶ 2、ESMの活用方法、操作を学ぶ 3、始動装置の構造、作動を理解する 4、スターターモータの分解、組みつけができるようになる 5、スターターモータの点検方法を学ぶ					
3. 授業の到達目標（何を理解し何が出来るようになるのか） 1、配線図を読めるようになる。 2、ESMを使用し、配線図の表示ができるようになる 3、始動装置の構成部品、構造を理解。スターターモータの分解組みつけができる 4、スターターモータの良否判定が出来る					
4. 学習評価（期末試験での主な試験項目） ・実技と学科履修試験とレポートルーブリック採点で評価する。実技と学科履修試験は30分間で実施する。 電気回路の測定する設問、又、エンジンを始動させる設問、又、記述式設問、又、レポート評価により100点満点で評価する。 ・合格点：60点以上 80点以上：優 60点以上：良（一級工学科70点以上） 60点未満：不可（一級工学科70点未満） ・不合格の場合、再試験を受験し、60点以上で合格とみなす。（一級工学科70点以上） 再試験合格の場合、得点に関わらず評価は「可」とする。 ・再試験不合格の場合、学校長の権限により教科判定試験を実施し、合格とみなす場合がある。					
5. 準備学習 ・教科書「三級自動車整備士」の始動装部分の項目を読んでおくこと。					
6. 学修時間と単位 本科目は、1単位あたり45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としている。 1単位の修得に必要な学修時間の目安は、15～30時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間である。					

国際オートメカニク科

2026年度 授業計画

時 期	1年後期	単元	実習	教科名	車両実習 2	
7. 授業概要（時限ごとの主な授業内容）					8. 教科書、資料、備品類	
時限	主な授業内容				資料、備品類	数量
1	教科概要、注意事項説明。電気回路について				3 級総合教科書	1
2	配線図の読み方				実習ノート 電気装置 1	1
3	配線図を用いた電気回路を読む練習				ジャンパー線	
4	配線図を用いた電気回路を読む練習				スターターモータ（直結式）	1 0
5	複合スイッチの点検の仕方				スターターモータ（リダクション式）	1 0
6	複合スイッチの点検の仕方				レジスターボード	1 0
7	ESMでの配線図確認方法、活用方法				電導師	1 0
8	電気故障診断の手順説明				グローラーテスター	3
9	配線図を用いて、故障箇所の絞込み方法				メガーテスト	9
10	始動装置概要説明				バッテリー	4
11	スタータの電気の流れ				電流計	3
12	マグネットスイッチの作動確認				ESM（パソコン）	5
13	スタータ分解前確認					
14	分解、組み立て、構造確認（直結式⇔リダクション式）					
15	分解、組み立て、構造確認（直結式⇔リダクション式）					
16	分解、組み立て、構造確認（リダクション式⇔直結式）					
17	マグネットスイッチ各部作動確認					
18	マグネットスイッチの点検方法					
19	マグネットスイッチの点検練習					
20	モータ部構成説明					
21	アーマチュア・フィールド各部作動確認、単体点検方法					
22	モータ部単体点検練習					
23	グローラーテスターにてレア・ショート点検方法					
24	スタータ組み付け					
25	無負荷特性テスト、拘束特性テスト説明					
26	習熟練習、ESM活用練習					
27	習熟練習、ESM活用練習					
28	習熟練習、ESM活用練習					
※	実習試験					

※ 期末試験は授業時間に含まない